

# 死別・社会・文化

## ——地域社会や文化の違いから見えてくる死別体験——

大切な人を亡くした死別体験者は、どのようにまわりの人や故人と関わるのでしょうか。家庭、職場、地域社会、ソーシャルネットワークなどの場で、どのように感じ、いかにふるまうことを、他者から期待されているのでしょうか——今回の集いでは、講演に加えてグループでの話し合いも行い、講師と参加者の対話を促します。特に、「地域社会、隣近所、職場、ソーシャルメディアは、どのように死別体験者をよりよく支援できるのか」、「死者への崇敬とグリーフ(死別反応)はどう関係しているのか」といった話題をとりあげます。

□ 日時：2014年11月21日(金) 午後7時～9時

□ 場所：東昌寺(松本市白板1-1-2 松本駅徒歩5分)

駐車場はありません。公共交通機関か近隣の駐車場等をご利用ください。

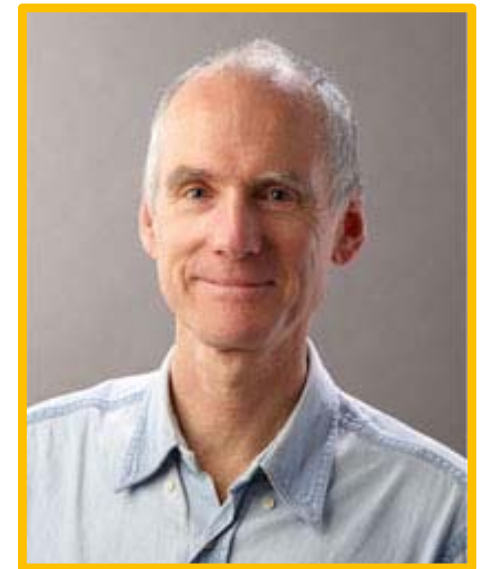
□ 講師：トニー・ウォルター先生(英国バース大学教授)

- 英国最大の死生学の拠点であるバース大学死と社会センター(Centre for Death & Society)センター長。社会学的なアプローチで死や死別の研究を数多く実施。教会との協働や葬祭業者のトレーニングにも従事。On Bereavement(『死別について』)、The Revival of Death(『よみがえる死への関心』)等、多数の著書がある。

司会：山崎浩司(信州大学准教授)

問合せ：hbshinshu@gmail.com / 0263-37-2369(信大山崎研究室)

主催：ケア集団ハートビート 後援：信州大学医学部地域保健推進センター



通訳あり

この集いは、公益財団法人上廣倫理財団平成25年度研究助成「共感の倫理に根ざしたまちづくり——松本市における地域共同的な死別者支援モデル」(申請者：山崎浩司)の助成で実現しました。